

同門の先生方へ

平素ご指導ご支援頂きましてありがとうございます。

このたび福井重文先生が臨床准教授に着任されました。また石黒智也先生が講師に昇任されました。お二人よりご挨拶を頂きましたので掲載させていただきます。

## CCU・不整脈班のシニアスタッフとして

藤田医科大学病院 循環器内科 石黒 智也

この度講師を拝命致しました石黒と申します。10月からCCU病棟のシニアスタッフ兼不整脈班に所属することとなり、日々精進していきたくと思います。先輩方の作り上げてきた藤田循環器に恥じないCCUを作っていけるようにスタッフ一同で頑張っていきたいと思っております。まだまだご迷惑をおかけする事が多いとは思いますが、引き続きご指導ご鞭撻のほど引き続き宜しくお願い申し上げます。



## 肺高血圧・肺循環診療を充実させるために

藤田医科大学病院 循環器内科 福井 重文

平素よりご指導とご協力を賜りまして誠にありがとうございます。

この度、井澤 英夫教授にご高配を頂き、10/1より仙台より赴任致しました福井 重文と申します。今後ご指導とご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



小生が専門と致します肺高血圧(PH)・肺循環診療に関しまして、当院で取り組みたい事をご紹介させていただきます。まず小生の略歴ですが、2001年に東北大学を卒業し、2008年に東北大学大学院を修了し、2013～2019年まで大阪の国立循環器病研究センター肺循環科に所属し、6年間研鑽を積んで参りました。2019～2021年は東北大学病院、2021～2022年9月までは東北医科薬科大学病院に在籍しておりました。

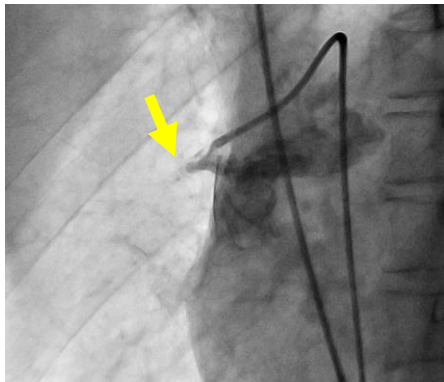
PHは、狭心症や心房細動と異なり、いわゆる稀少疾患で厚生労働省の指定難病の一つに分類され、なじみの少ない先生方もおられるかと思っております。一方で、この領域は近年その診療のニーズが増加してきており、この10～20年で最も進歩した領域の一つとも言えます。臨床分類の第1群である肺動脈性肺高血圧症(PAH)では特異的肺血管拡張薬の開発・進歩により、同第4群の慢性血栓性肺高血圧症(CTEPH)では外科手術やバルーン肺動脈形成術(BPA)を含めたインターベンションの進歩により、早期に適切に診断及び治療がなされれば、その予後は大きく改善し得る時代となっております。

PAHは、その成因により特発性、膠原病関連、肺疾患、肝疾患（肝硬変など）由来、先天性心疾患関連などに分類され、多彩な患者背景をもちますので、その診断には診療科横断的な臨床的アプローチを必要とします。そのため、血液・リウマチ科や、呼吸器内科、消化器内科、小児科、心臓血管外科の先生方とも連携し、治療にあたる必要があります。また、CTEPHでは当科でもBPA（図1）を施行していく予定であります。さらに、奇異性脳塞栓症の原因となる卵円孔開存症(PFO)のデバイス閉鎖術（図2）も準備が出来次第開始したいと考えております。こちらは脳卒中専門医及び当科のエコー班とも連携・協力して施行させて頂きたいと考えております。今後、心房中隔欠損症(ASD)の施設認定取得の準備も行ってゆきたいと考えております。

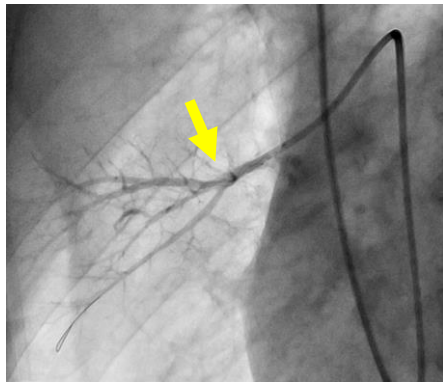
これからも先生方のご指導やご意見を賜りながら、活動していきたいと思っておりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

## BPA

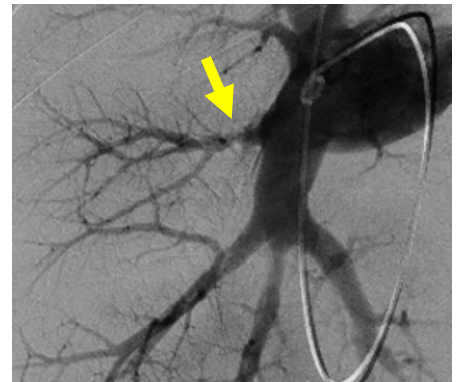
直前



直後



3ヶ月後

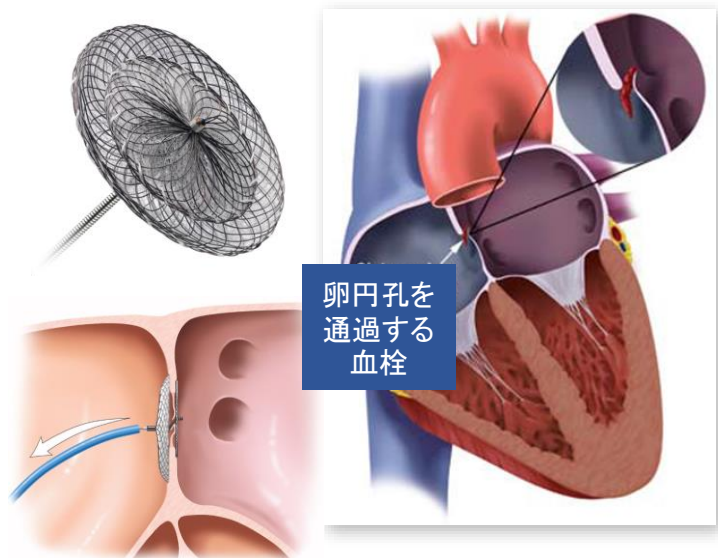


Fukui S, Ogo T, Nakanishi N et al. Eur Respir J, 2014.

## PFOデバイス閉鎖術

<図1>バルーン肺動脈形成術(BPA)直前、直後、及び3ヶ月後の肺動脈造影所見：本治療の特徴として、器質化血栓のため一度拡張すれば、抗凝固薬継続下では再狭窄/再閉塞が問題になる事はほとんどないとされています。

<図2>卵円孔開存症(PFO)閉鎖デバイスと、その仕組み：本治療はPFOを介する奇異性脳塞栓症の二次予防に対して保険収載されています。



Abbott medical Japanより